

水辺公共空間における現地・原寸ワークショップ手法の開発

— 東京都墨田区北十間川周辺地区での取り組み —

DEVELOPMENT OF THE METHOD OF FIELD AND ACTUAL SCALE WORKSHOP IN THE WATERFRONT PUBLIC SPACE

— Case study around Kitajikken river in Sumida Ward, in Tokyo —

外山裕太 — * 1 志村秀明 — * 2

Yuta SOTOYAMA — * 1 Hideaki SHIMURA — * 2

キーワード:

市民参加, ワークショップ, まちづくり, 水辺公共空間, 現地, 原寸

Keywords:

Citizen participation, Workshop, Community development, Waterfront public space, Field, Actual scale

The purpose of this paper is to report the method, the result, and the evaluation on Field and Actual scale workshop in the waterfront public space to image the improvement plans more certainly.

The conclusions are as follows. 1) Each workshop could collect many opinions from the participants by the method to use tools according to the examination items and contents. 2) Based on the opinion, Sumida ward office reconsidered and decided improvement plans 3) Because participants could image the improvement plans by going to the field and using tools, the participants were satisfied by this method.

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

まちづくりにおける整備計画の策定ワークショップ(以下:WS)では、参加者が整備内容を確実にイメージすることが重要である。その手法として、整備計画について、図面や模型を使用して検討を行うことは多い^{1) 2) 3)}が、より確実に参加者が整備内容をイメージするために、現地で整備箇所の状況を実際に確認し、かつ原寸によって整備内容を確認する現地・原寸WSが行われることがある。しかし、その手法は十分に開発されていない。

ところで、日本各地で水辺公共空間の活用と賑わいづくりが注目されている^{4) 5)}。水上から陸上までの水辺公共空間の改善を図るまちづくりにおける整備計画の策定WSの手法を開発することの重要性は増していると言えよう。

本研究では、東京都墨田区北十間川周辺地区において、水辺公共空間を改善する整備計画を策定する現地・原寸WSを開催した。本稿では、水辺公共空間を改善する整備計画を策定する現地・原寸WS手法を開発することを主眼として、北十間川周辺地区で開催した現地・原寸WSの手法及び参加者からの意見、整備の方向性、また参加者の現地・原寸WSへの評価について報告する。

1.2 北十間川周辺地区

北十間川周辺地区を図1に示す。

北十間川周辺地区の水辺公共空間(以下:北十間川周辺公共空間)は、隅田川から東へとのびる一級河川^{注1)}北十間川の樋門施設までの区間沿い、及び墨田区立隅田公園南区域である。北十間川沿いには、耐震護岸を整備して遊歩道とする計画がある。また北十間川北側を通る東武鉄道(東武伊勢崎線)高架下空間が遊歩道と合わせて整備される予定である。更に、北十間川に隣接する隅田公園南区域と隅田公園と北十間川の間にある公園南側区道も併せて整備される予定であ

る。以上の整備計画の検討を現地・原寸WSで行った。

1.3 既往研究

現地調査を行うWSの手法は報告されているが、現地において原寸で整備内容を確認するWSの手法の報告は少ない^{注2)}。また、東京都世田谷区の一級河川で再生水の流れ^{注3)}である北沢川で実施された現地・原寸WS^{7) 8)}では、北沢川水辺再生計画段階における住民参加の経緯及び成果と課題を明らかにしている。しかし、自然水が流れる一級河川沿いの水辺公共空間を改善する計画策定での現地・原寸WSの研究報告はない。

1.4 研究の方法

現地・原寸WSでは、陸上からの隅田公園南区域等の検討、また高架下空間と遊歩道・船着場・樋門施設等の検討、更に水上からの遊歩道整備等の検討を行うために計3回のWSを開催した。

まず、2017年度までの北十間川周辺公共空間の整備に向けた取り組みと現地・原寸WSの構成と使用ツールを提示する。次に、第1回から第3回までの参加者からの意見、参加者からの意見による整備の方向性を示す。最後に、現地・原寸WSの参加者を対象に実施した

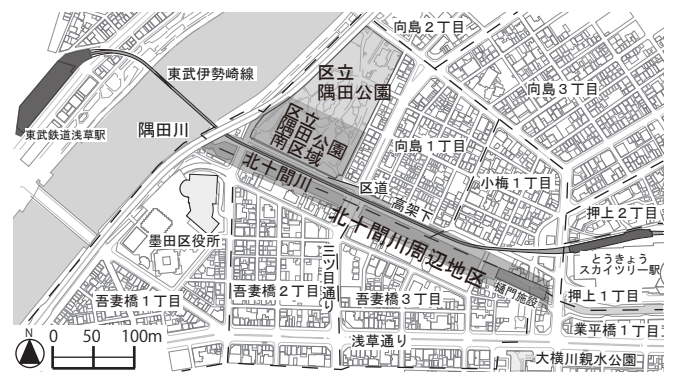


図1 北十間川周辺地区

¹⁾ 芝浦工業大学大学院工学研究科建設工学専攻 修士課程 (〒135-8545 東京都江東区豊洲3-7-5)

²⁾ 芝浦工業大学建築学部 教授・博士(工学)

¹⁾ Graduate Student, Shibaura Institute of Technology

²⁾ Prof., Dept. of Architecture, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.

アンケート調査^{注4)}から、現地・原寸WSの評価を明らかにする。

2. 北十間川周辺公共空間の整備に向けた取り組み

2.1 北十間川周辺公共空間の整備に向けた取り組みの経緯

北十間川周辺公共空間の整備に向けた取り組みの経緯を表1に示す。2015年度から地元町会^{注5)}と商店会^{注6)}を交えた準備会^{注7)}を発足し、この準備会を母体とした「北十間川の水辺活用に向けた勉強会^{注8)}」(以下:勉強会)を2015年度末から開催し始めた。2016年度は計4回の勉強会を通じて、隅田公園と北十間川の状況や利活用について検討を進めてきた。2017年度から勉強会に所属する各町会から有志で参加者を募り、北十間川周辺公共空間の整備内容を検討する検討部会を勉強会と並行して開催していくことになった。この検討部会で現地・原寸WSを開催していった。

2.2 北十間川周辺地区の現状と検討項目

北十間川周辺地区の現状と検討項目を図2に示す。

2016年度までの取り組みから隅田公園と北十間川周辺の現状と検

討すべき内容が挙げられた。隅田公園では、成長した樹木が公園全体を覆うことや、花見山の高さが高いことから、見通しを悪くしていることが挙げられた。そのため、樹木の伐採や花見山の高さ等が検討項目となった。また、北十間川周辺では、水辺が使われていないことや、橋や高架下、樋門施設等が水辺とのつながりがないことが挙げられた。そのため、高架下空間と遊歩道・船着場の新設、樋門施設の改修等が検討項目となった。

第1回WSでは、樹木の伐採、花見山の高さ、園路舗装、石垣の保存、川から公園の一体的道路、南北軸の位置、遊歩道の新設を対象とし、第2回WSでは、遊歩道の新設、スロープ・階段、船着場の新設、源森橋の整備、小梅橋の整備、東武橋の整備、高架下の活用、樋門施設の改修、水辺の修景を対象とし、第3回WSでは、遊歩道の新設、スロープ・階段、枕橋の整備、源森橋の整備、小梅橋の整備、高架下の活用、水辺の修景を対象とした。

2.3 現地・原寸WSの構成と使用ツール

現地・原寸WSの構成と使用ツールを表2に示す。

水辺公共空間を対象とするため、現地には陸上と水上があり、検討項目・内容によって車イス、イス、ボートを使用ツールとする。また、原寸にもやはり陸上と水上があり、検討項目・内容によって白線、段ボールスケール^{注9)}、コンベックス、ビニールシート、スズランテープ^{注10)}を使用ツールとする。

3. 第1回WS：隅田公園南区域等

第1回WSでの検討項目と手法、参加者からの意見、整備の方向性を図3に示す。

3.1 検討項目と手法

樹木の伐採については、スズランテープを使用し、保存と伐採の印をつけることで検討した。花見山を低くすることは、計画高さの形状になるように白線で印をつけることや、計画高さまで段ボールスケール積み上げること、車イスを実際に押すことで検討した。園路舗装や川から公園の一体的道路の状態や段差については、車イスを實際

表1 北十間川周辺公共空間の整備に向けた取り組みの経緯

年度	月	北十間川周辺公共空間整備に向けた取り組み	備考
2006		北十間川水辺活用構想 ※1	構想策定
2014	3	東京都長期ビジョン ※2	
		●準備会発足	
2015	10	○水辺活用&勉強会趣旨説明会(準)	
	12	○隅田川&墨田区内部河川見学会(準)	
	1	○水辺の活用フォーラム開催	
		●北十間川の水辺活用に向けた勉強会発足	
	2	○全体顔合わせ、意見交換(勉)	
	7	○北十間川周辺まち歩き(勉)	
	9	○隅田公園整備について意見交換(勉)	
2016	12	○隅田公園南側ソーニング意見交換	
		○隅田公園整備計画家意見交換	
	3	○北十間川親水テラス整備意見交換(勉)	
		●検討部会発足	
	5	○全体顔合わせ、意見交換(勉)	
	6	○昨年度の振り返り、検討案作成(勉)	
	7	○第1回WS(検)	
2017	8	○WSの振り返り、北十間川活用に向けた協議(勉)	
	9	○第2回WS(検)	
	10	○WSの振り返り、北十間川周辺事業の確認(勉)	
	11	○第3回WS(検)	
	12	○WSの振り返り、北十間川周辺整備に向けた来年度の取り組み確認(勉)	
	3	●北十間川水辺活用協議会発足 ※3	

凡例)
 ●:策定された計画
 ●:まちづくり組織の発足
 ○:主な活動
 ()内はその活動の主体を示す。
 (準):準備会
 (勉):勉強会
 (検):検討部会
 注)
 ※1 隅田川を中心とした周辺地域に水辺を活かしたまちづくりと観光を推進する水辺空間の活用構想
 ※2 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、水辺の魅力を活かした賑わいの創出として、北十間川が先行事業として選定された
 ※3 協議会:勉強会を母体としたまちづくりを考える場。水辺の良好な保全と恒常的な賑わい創出により、水辺と周辺地域の活性化を図る

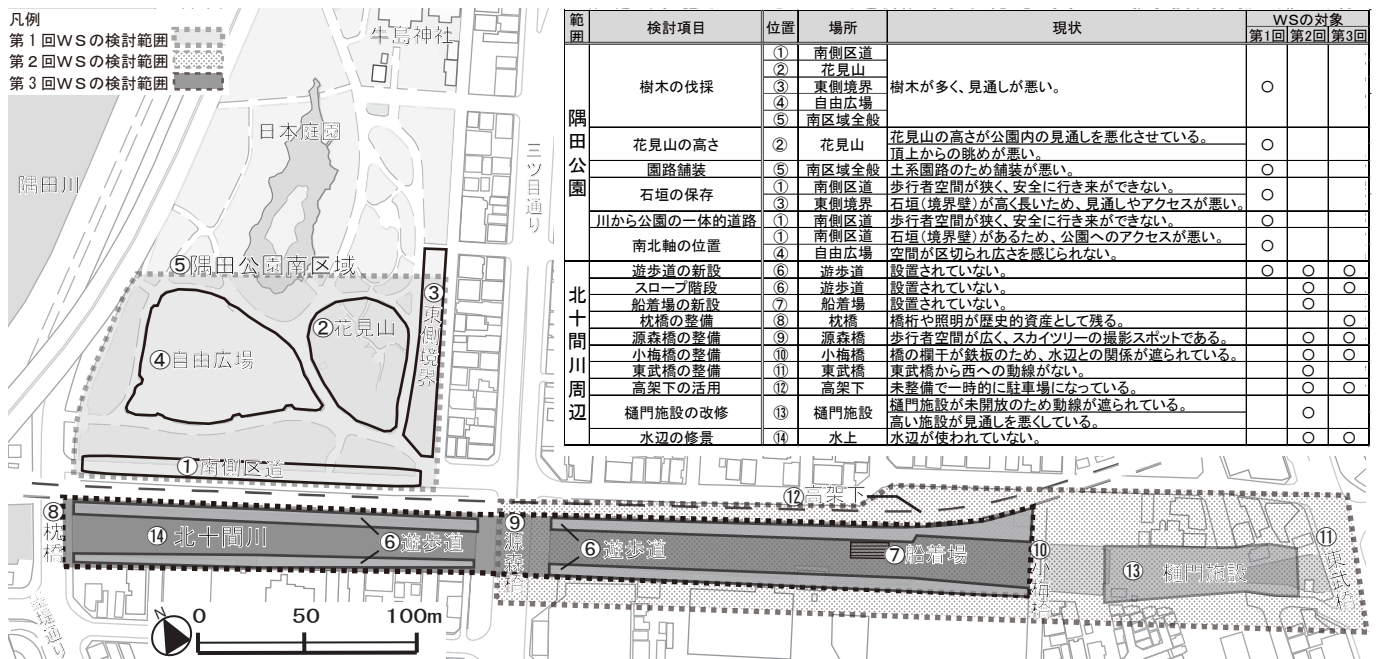


図2 北十間川周辺地区の現状と検討項目

に押すことで検討した。石垣の保存は、コンベックスで石垣の高さを測ることで削減する高さを検討した。南北軸の位置については、白線で印をつけることで検討した。遊歩道の新設については、新設される位置にコンベックスをあててことで検討した。

3.2 参加者からの意見

WSから出た参加者の意見を、内容が類似しているものでまとめた^{注11)}。第1回WSでは、参加者から37の意見を収集することができた。

樹木の伐採に関するものが12と多く、高木の伐採には否定的であった。花見山の高さに関するものが8で、計画高さには肯定的であっ

た。園路舗装に関するものが3で、土の舗装には否定的であった。石垣の保存に関するものが5で、石垣は保存すべきという意見が多かった。川から公園の一体的道路に関するものが4で、段差なくつながりが欲しいという意見が多かった。南北軸の位置に関するものが2で、南北軸の位置は見通しに配慮したいという意見であった。遊歩道の新設に関するものが3で、遊歩道は十分広いという意見であった。

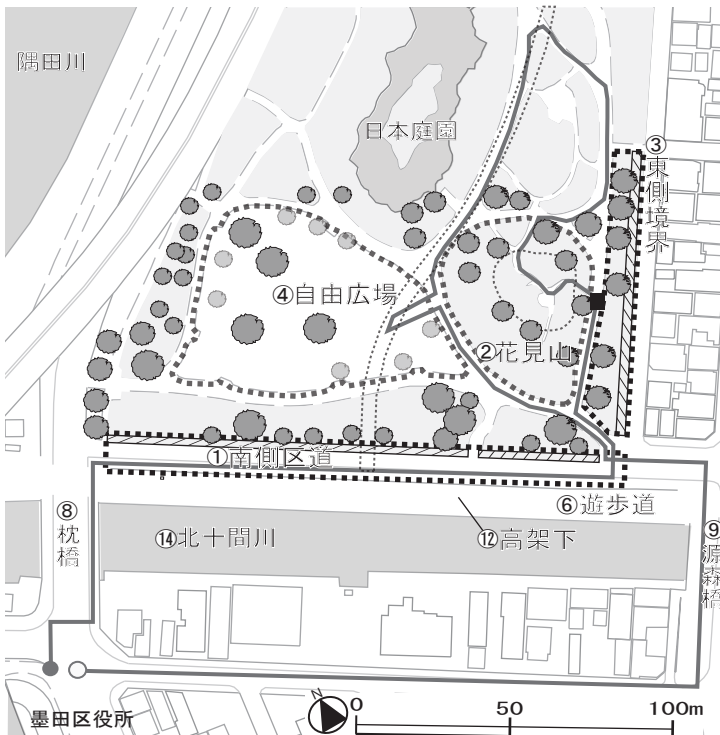
以上の意見を踏まえて、運営者である墨田区、コンサルタント、大学で再検討し、勉強会で整備の方向性を決定した。

3.3 整備の方向性

樹木の伐採は、高木は残して低木類を伐採することになった。花見山の高さは、計画高さ通り削減し、傾斜を抑えることでどこからでも頂上に登れるようにして、車イスのために舗装した通路を1つ設けることになった。石垣は、ほぼ全て保存して、歩行者空間の拡張に伴うセットバックも取りやめた。南側区道にエントランスを設置するため一部の石垣を撤去するが、樹木を囲うように花壇として活用し、ベンチのように座れることになった。

表2 現地・原寸WSの構成と使用ツール

構成	検討内容	使用ツール	
現地	陸上	一般移動利用 車イスやベビーカー利用	車イス
	水上	滞在利用	ボート
		移動・滞在利用	白線
原寸	陸上	平面的位置・大きさを示す 高さを示す	段ボールスケール コンベックス
	水上	現状の平面的長さ・大きさ・高さを示す 樹木の保存・移植・伐採を示す	スズランテープ ビニールシート
			水上における大きさや位置を示す



参加者※1	注	
	団体名	人数
吾妻橋1丁目	4名	※1 運営は墨田区、コンサルタント、大学である。
吾妻橋3丁目	2名	※2 ものこ市とは、毎年1回秋頃に隅田公園で開催する東東宗最大規模の手づくり市。
向島1丁目	2名	※3 ひらがなネットとは、ソーシャルビジネスで、日本で暮らす外国人をサポートする会社。
小梅橋1丁目	3名	
ものこ市※2	1名	
ひらがなネット※3	1名	

検討項目	検討内容	使用ツール	手法
樹木の伐採	計画の樹木の量で見通しが改善されるか。 樹木を伐りすぎないか。 適切な木蔭ができるか。	スズランテープ	保存は緑、移植は赤色のテープを樹木に巻いて印をつける。
	計画高さで見通しの悪さを改善できるか。 頂上の広さは適切か。 頂上への行き来はスムーズになるか。	白線	計画高さの形状になるよう印をつける。
花見山の高さ	計画高さで見通しの悪さを改善できるか。 園路からの圧迫感はないか。 頂上への行き来はスムーズになるか。	段ボールスケール	計画高さまで段ボールを積み上げる。
	園路からの圧迫感はないか。	車イス	ベビーカーを実際に押して確認する。
園路舗装	舗装は土系かアスファルト系どちらにするか。 現在の舗装状態を改善する。	車イス	ベビーカーを実際に押して確認する。
石垣の保存	歩行者空間拡張に伴う石垣の撤去は必要か。	コンベックス	石垣の高さを測り、削減する高さを検討する。
川から公園の一体的道路	川と公園の段差は解消するべきか。 歩道空間は広げるべきか。	車イス	ベビーカーを実際に押して確認する。
南北軸の位置	南北軸の位置や大きさ、見通しは適切か。	白線	南北軸の位置に印をつける。
遊歩道の新設	北側遊歩道の大きさは適切か。	コンベックス	新設予定の遊歩道の大きさにあてる。

範囲	検討項目	位置	場所	参加者からの意見	意見数	
					合計	37
隅田公園	樹木の伐採	①	南側区道	見通し確保のためなら、高木の枝落としや低木の伐採だけでよい。 大きな木を伐りすぎるとこの案は絶対に認められない。 大きくなった低木類を伐採すれば見通しは改善される。	3	1
			花見山	花見山の木は枝を切るだけでよい。	2	2
			東側境界	桜並木など、樹木伐採したものを再生させてほしい。	1	1
			自由広場	公園の景色を見渡せるようにしたい。	2	2
			南区域全般	牛島神社が見通せるようにしたい。	1	1
隅田公園	花見山の高さ	②	花見山	計画高さ通り2mでも見通しがきく。 頂上高さが2mでも緩やかな山の形状であれば問題ない。	3	2
				車イスでも登れるようにしたい。	3	3
隅田公園	園路舗装	⑤	南区域全般	園路がカタカタだから、土はあめたほうがいい。	3	3
				石垣を無くして道路を広げるのではなく、車道を狭くする。 石垣は残してベンチとして活用したい。	1	3
隅田公園	石垣の保存	③	東側境界	小梅半島通りまでしっかり整備してほしい。	1	5
				北十間川から隅田公園まで段差なくつながりが欲しい。 南側区道を広げるために水道局の囲いは邪魔だから撤去したい。	3	4
川北周十辺	遊歩道の新設	⑥	遊歩道	南北軸の位置に門柱やゲートを設置したい。 南北軸を通して、牛島神社が見えるようにしたい。	1	2
				北側遊歩道がかなり広いので、活用していきたい。 遊歩道からゆつり電車を眺めたい。	1	3
合計					37	37

整備の方向性	
高木は基本的に残し、状態の悪い樹木や低木類は伐採する。 花見山の高さの削減に伴い、成長の見込めない樹木や状態の悪い桜は伐採する。 桜は花見山に移植する。 芝生の広場や低木類の伐採により、見通しは確保できる。 牛嶋神社周辺は今後再検討する。	
計画通りの高さにする。山の高さを抑えることで勾配も緩やかになり、見通しも改善する。 階段を無くし、勾配を緩やかにすることで、どこからでも歩いて頂上に行けるようにする。 車イス用に舗装した通路を1つ設ける。 土はできるだけやめたい。最低でも排水の面は改良する。	
南側にエントランスを設置するため、一部移動するが、樹木を囲う花壇のように配置し、ベンチとしても活用できるなど基本的には全て保存する。セットバックも取りやめる。 東側境界には一部入り口を設けるため撤去するが、ほぼ全て保存する。 一部高架下の店舗が入らない川へつながる部分は段差を解消する。 水道局の囲いは撤去する。 門柱やゲートは設置できないが、エントランス部分の舗装は変える。 エントランスや芝生の広場の新設により、見通しは改善される。	
枕橋～源森橋間の遊歩道は、北側を4～5m、南側を2～4mにする。	

図3 第1回WSでの検討項目と手法、参加者からの意見、整備の方向性

4. 第2回WS：高架下と遊歩道・船着場・樋門施設等

第2回WSでの手法と検討項目、参加者からの意見、整備の方向性を図4に示す。

4.1 検討項目と手法

遊歩道の新設については、それぞれの橋に遊歩道の新設位置を白線で印をつけて検討した。遊歩道と橋を繋ぐスロープや階段の位置は、護岸に白線で印をつけて検討した。新設予定の船着場の位置や大きさや活用方法については、ビニールシートを船着場の大きさに広げて水面にせり出すことや、イスを高架下に配置して検討した。小梅橋の整備については、橋の袂に白線で架け替え後の位置の印をつけて検討した。高架下の活用については、イスを高架下に配置して検討した。源森橋の整備、小梅橋の整備、樋門施設の改修、水辺の修景については、現地に行って検討した。

4.2 参加者からの意見

WSから出た参加者の意見を、内容が類似しているものでまとめた。第2回WSでは、参加者から45の意見を集めることができた。遊歩道の新設に関するものが11と多く、遊歩道に植栽を配置したいという意見が多かった。スロープ・階段に関するものが2で、階段ではなくスロープにしたいという意見であった。船着場の新設が7で、船着場を活用したボートやカヌーでの利用に積極的であった。小梅橋の整備に関するものが5で、安全で落ち着いた場所にしたいという意見が多かった。源森橋の整備に関するものが8で、東西の移動

に関する意見が多かった。東武橋の整備に関するものが2で、スカイツリーからの人の流れをつながたいという意見が多かった。高架下の活用に関するものが5で、高架下の活用に積極的であった。樋門施設の改修に関するものが4で、樋門の改修はすべきという意見が多かった。水辺の修景に関するものが1と少なく、安全のためにはしごを設置したいという意見だった。

以上の意見を踏まえて、運営者である墨田区、大学で再検討し、勉強会で整備の方向性を決定した。

4.3 整備の方向性

遊歩道の新設については、樹木を植えることになり、隣地境界は景観に配慮したパネルを設置することになった。スロープ・階段については、枕橋と源森橋の北側は階段となり、その他はスロープを設置することになった。船着場については、活用方法は来年度検討していくことになり、北側道路と結ぶ位置には店舗を置かない方針で検討している。

5. 第3回WS：水上からの遊歩道整備等

第3回WSの手法と検討項目、参加者からの意見、整備の方向性を図5に示す。

5.1 検討項目と手法

一部の参加者がボート^{注12)}に乗って、水上と陸上の両方から検討した。遊歩道と橋を繋ぐスロープ・階段の位置は、護岸に白線で印を



図4 第2回WSでの検討項目と手法、参加者からの意見、整備の方向性

つけて検討した。新設する遊歩道の幅は、それぞれの橋に白線で印をつけて検討した。

5.2 参加者からの意見

WSから出た参加者の意見を、内容が類似しているものでまとめた。第3回WSでは、参加者から65の意見を収集することができた。遊歩道の新設に関するものが16で、緑を活用したいという意見が多かった。スロープ・階段に関するものが4で、階段ではなくスロープにしたいという意見が多かった。枕橋の整備に関するものが6で、ツタや緑などの雰囲気がいいため残したいという意見が多かった。源森橋の整備に関するものが1と少なく、橋の下も活用したいという意見であった。小梅橋の整備に関するものが1と少なく、架け替え後は水上からの見通しもよくなるという意見であった。高架下の活用に関するものが10で、水上から見える高架下をよくしたいという意見が多かった。水辺の修景に関するものが27と多く、水上の活用に積極的だった。

以上の意見を踏まえて、運営者である墨田区、大学で再検討し、勉強会で整備の方向性を決定した。

5.3 整備の方向性

遊歩道の新設については、現在の樹木は植え替える形で残すことになった。また、水鳥や小魚も生息できる環境にしていくことになった。枕橋の整備については、現在の雰囲気がいいため残して活用して

いくことになった。水辺の修景については、護岸に石垣のパネルを張り付ける方向で検討していくことになった。水辺の活用方法は、来年度から協議していくことになった。

6. 現地・原寸WSの評価

現地・原寸WSの参加者を対象に、各回WSの満足度とWS全体に対する評価についてアンケート調査を実施した。

6.1 各回WSの満足度

参加者の各回WSに対する満足度を図6に示す。

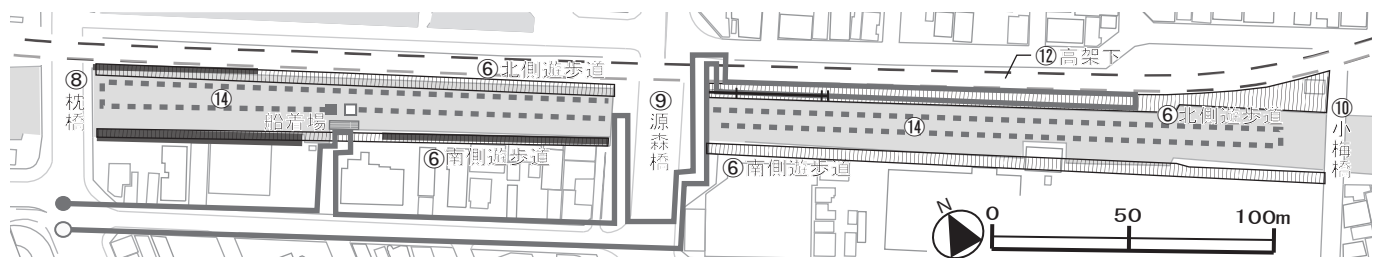
1) 第1回WSに対する満足度

WSに対する満足度は「とてもよかった」が約7割、「少し良かった」が残りの約3割で、参加者全員がWSに対して満足した。評価の具体的な理由は、現地において原寸で確認したことで整備内容がイメージできたことや、他の参加者の意見を知ることができたこと等であった。

2) 第2回WSに対する満足度

WSに対する満足度は「とてもよかった」が約9割、「少し良かった」が残りの約1割で、参加者全員がWSに対して満足した。評価の具体的な理由としては、現地において原寸で確認したことで整備内容がイメージできたことや、現地の状態を把握できたこと等であった。

3) 第3回WSに対する満足度



凡例) 陸上ルート ● 出発地点 ○ 到着地点 ① 検討した位置 階段の位置 ポートの乗降のための仮設船着場
水上ルート ■ 出発地点 □ 到着地点 植栽 スロープの位置 新設予定の遊歩道の位置



参加者※1	
団体名	人数
吾妻橋1丁目	3名
吾妻橋3丁目	3名
向島1丁目	1名
小梅橋1丁目	3名
ものこ市	1名
ひらがなネット	1名

※1 運営は墨田区と大学である。

検討項目	検討内容	手法	
		使用ツール	使用方法
遊歩道の新設	遊歩道の大きさや位置は適切か。	白線	橋に遊歩道の位置の印をつける。
	整備後の遊歩道の活用方法はどうか。	—	—
	整備後の遊歩道の活用方法はどうか。	ポート	水上から確認し、検討する。
スロープ階段	整備後の遊歩道の活用方法はどうか。	—	水上から状態を確認する。
	現在ある植栽を残すか伐採するか。	白線	遊歩道にスロープ階段の印をつける。
枕橋の整備	橋の雰囲気はどうか。	—	—
	源森橋の整備	水上からの雰囲気はどうか。	—
小梅橋の整備	架け替え後の雰囲気はどうか。	—	—
	高架下の活用	水上からの雰囲気はどうか。	ポート
水辺の修景	水辺との一体的な活用方法はどうか。	—	—
	水辺の風景を確認する。	—	—

範囲	検討項目	位置	場所	参加者からの意見	意見数	
					検討項目	意見数
北十間川周辺	遊歩道の新設	⑥	遊歩道	遊歩道がかなり広いので、活用していきたい。	1	16
				植栽が残っている場所等、今の雰囲気を大事にしたい。	4	
				水鳥の巣をつくれる場所があるといい。	2	
				干潮時の水辺との関係が気になるため、遊歩道にも工夫がほしい。	3	
				船に乗っている人たちが会話ができるため、活用していきたい。	4	
	南側に桜並木などの緑を増やしたい。	2				
	スロープ階段	⑥	遊歩道	源森橋から降りるとき段差をつけたくない。	2	4
				車いすの人も楽しめるようにスロープ長さを検討したい。	2	
	枕橋の整備	⑧	枕橋	下から眺めると風情があつてとてもよいので、残していきたい。	4	6
				枕橋の緑やツタの雰囲気がいいので、残していきたい。	2	
源森橋の整備	⑨	源森橋	船が橋の下を通る雰囲気がいいので、活用していきたい。	1	1	
小梅橋の整備	⑩	小梅橋	架け替え後は樋門までの視線が良くなりそう。	1	1	
高架下の活用	⑫	高架下	使用する船とマッチした高架下の雰囲気を演出してほしい。	2	10	
			満潮時はボートから高架下の人が見えるため、賑わいが生まれる。	3		
			視線が抜けるガラス張りのお店がいい。	2		
			高架下と遊歩道をライトアップしてスカイツリーにつなげたい。	3		
			満潮時のボート遊びは楽しかったため、活用していきたい。	5		
水辺の修景	⑭	水上	船はゆっくりのスピードのほうが、観光客は楽しめる。	1	27	
			波がなく水面も非常に穏やかなため、積極的に活用していきたい。	5		
			水鳥が近くにいると歓迎している雰囲気がいい。	4		
			護岸がコンクリートで殺風景だから、化粧をして改善したい。	7		
			干満の差(3.1m)が気になるため、活用に工夫がいる。	3		
			浅草～スカイツリー間の船は人気が出そう。	2		
			合計	65		65

整備の方向性
遊歩道の広さは北側を4~5m、南側を2~4mにする。 現在残っている植栽は植え替える形で残す。 石垣のパネル設置により、水鳥や小魚も生息する環境にする。 南側には植栽を設けるが、具体的な種類は今後検討する。
枕橋と源森橋の北側に階段。その他にスロープを設ける。
現在の雰囲気が非常にいいので、残して活用する。 源森橋の下の活用は再検討する。 水辺のデザインにあった橋を架ける。
高架下の活用方法は来年度から協議する。 ライトアップではないが、照明を取り付ける。
護岸には石垣のパネル等を張る。 水辺の活用方法は来年度から協議する。

図5 第3回WSでの検討項目と手法、参加者からの意見、整備の方向性

第3回WSでは、WSに対する満足度は「とてもよかった」が約8割、「少し良かった」が残りの約2割で、参加者全員がWSに対して満足した。評価の具体的理由としては、ボートを使用し、現地において原寸で確認したことで整備内容がイメージできたこと等であった。

第1回から第3回WSまでの全てで満足度が高かったと言える。その理由として、現地において原寸で確認したことで整備内容がイメージできたことが多くあった。また、ボートを使用し、現地において原寸で確認したことでイメージができたことがあった。

6.2 WS全体に対する評価

参加者のWS全体に対する評価を図7に示す。

1) 現地での検討に対する評価

「現地での検討したことで整備内容をイメージできたか」については、「とてもできた」が約6割、「少しできた」が残りの約4割であった。現地での検討したことで整備内容をイメージできたと言える。

2) 使用ツールの評価

「使用ツールは整備内容を検討するうえで役に立ったか」については、「とても役に立った」が約6割、「少し役に立った」が残りの約4割であった。使用ツールを本WSの手法に従って用いたことで、整備内容を確認できたと言える。

7. まとめ

本研究では、北十間川周辺公共空間で開催した現地・原寸WSの手法、及び参加者からの意見、整備の方向性、また参加者の現地・原寸WS評価について以下のことを示した。

- ・陸上と水上での使用ツールを検討項目・内容に合わせて用いる手法により、第1回から第3回の各WSの検討項目ごとに参加者から多くの意見を収集することができた。墨田区は参加者の意見を受けて再検討し、勉強会を経て整備の方向性を決定することができた。
- ・参加者の現地・原寸WSに対する満足度は高く、現地での検討したことで整備内容をイメージできたことが満足度を高めていた。また、参加者は使用ツールを本WSの手法に従って用いたことで、整備

内容を確認できたと言える。

以上のことから、水辺公共空間を改善する整備計画を策定する現地・原寸WS手法では、検討項目に合わせて、本WSでの使用ツール、車イス、イス、ボート、白線、段ボールスケール、コンベックス、スズランテープ、ビニールシート等を、本WSで示したような手法で用いることが有益であることを示すことができた。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、墨田区都市整備課の皆様、検討部会へ参加していただいた各町会の皆様にご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。

注

- 注1) 「一級河川」とは、一級水系に係る河川のうち河川法による管理を行う必要があり、国土交通大臣が指定（区間を限定）した河川を指す。
 注2) 参考文献6) などによる報告にとどまっている。
 注3) 本流は暗渠となり、再生水を地上に流している。
 注4) アンケート調査：2017/7/15Sat, 2017/8/19Sat, 2017/11/25Sat 実施。対象は各WSの参加者。第1回から第3回WSでは、(1)WSの満足度(2)評価の具体的理由、の2点について調査した。第3回WSではそれに加えて、WS全体を通じた(3)現地での検討に対する評価(4)使用ツールの評価、の2点についても調査した。
 注5) 「地元町会」とは、吾妻橋1、2、3丁目町会、向島1丁目町会、小梅1丁目町会である。
 注6) 「商店会」とは、本所吾妻橋商店会、吾妻橋パトリア会、リバーピア吾妻橋飲食店会、言問橋商店会である。
 注7) 「準備会」とは、地元町会と商店会、墨田区が母体となるまちづくり団体である。
 注8) 「勉強会」とは、地元町会、商店会、東京都、墨田区、大学などが母体となるまちづくり組織である。
 注9) 「段ボールスケール」とは、組み立てた段ボールを積み上げてスケールのように使用する。第1回WSでは、高さ約30cmの段ボールを7個用意した。移動の際は段ボールを折りたたむ。
 注10) 「スズランテープ」とは、幅広のビニール製テープである。
 注11) 参加者からの意見は、ポストイットと録音で記録した。4章5章も同様である。
 注12) 「ボート」とは、船外機付き4人乗りゴムボートである。第3回WSでは、墨田区2人と参加者2人を1グループとした。

参考文献

- 1) 佐藤滋ほか6名：まちづくりデザインゲーム，学芸出版社，2005.3
- 2) 志村秀明，辰巳寛太，佐藤滋：目標空間イメージの編集によるまちづくり協議ツールの開発に関する研究，一般社団法人日本建築学会，pp.219～226，2002.8
- 3) 志村秀明，佐藤滋：街路空間デザインゲームの開発に関する研究，一般社団法人日本建築学会，pp.247～252，1998.10
- 4) 赤沼大暉，萩野正和，志村秀明：水辺公共空間の活用を促進するための体制と運営に関する研究，日本都市計画学会都市計画論文集，vol53，No.1，pp.27～38，2018.4
- 5) 泉英明，嘉名光市，武田重昭：都市を変える水辺アクション 実践ガイド，学芸出版社，2015.10
- 6) 木下勇：ワークショップ住民主体のまちづくりへの方法論，学芸出版社，2007.1
- 7) 平良敏一，浅海義治：造景「参加のまちづくり」はいま，建築資料研究社，pp.31～40，1997.6
- 8) 坪井壘太郎：住民参加による水辺再生事業の成果と課題—東京都世田谷区・北沢川を事例として—，水資源・環境研究，19巻，pp.35～42，2007.3

[2018年6月5日原稿受理 2018年7月24日採用決定]

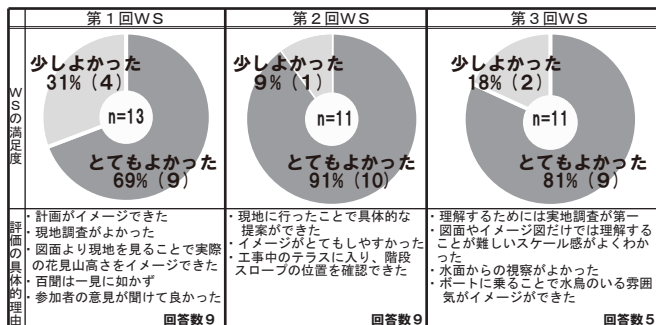


図6 参加者の各回WSに対する評価

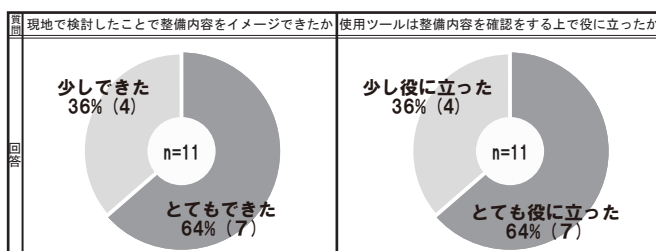


図7 参加者のWS全体に対する評価